

# 友の会講演会「信濃川・大河津分水の未来を考える」

## 1. イベント概要

日 時：令和2年1月25日(土)14:00～17:00

会 場：燕市分水公民館

内 容：台風19号の出水状況や今後の大河津分水路改修事業、甚大化する水害への備えなどについてご講演頂きました。

主催者：NPO法人信濃川大河津資料館友の会

参加者：298名



会場が満席になるなど大勢の方々が来場されました。

## 2. イベント状況

令和元年10月13日に通水以来最大の水位を記録した大河津分水。その洪水の概要や、メディアの防災情報発信の在り方、そして私たちができる水害への備えなど様々な内容であったこともあり、298名もの方々が来場されました。また、大河津分水路改修事業に関する質問が多く寄せられるなど熱気あふれる講演会となりました。

### ◆講演①

信濃川河川事務所計画課丸山課長  
『10.13の大河津分水』

### ◆講演②

NHK新潟放送局アナウンサー山崎氏  
『メディアと大河津分水と私』

### ◆講演③

長岡技術科学大学准教授松田氏  
『住民参加型水害対策のデザイン』



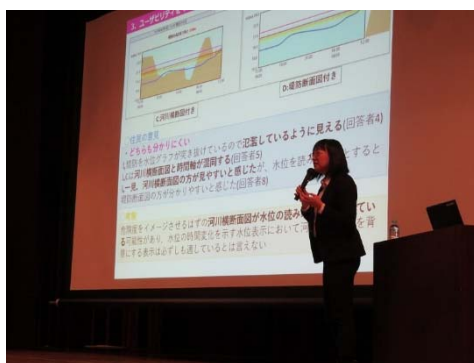
講演に先立ち信濃川河川事務所室永所長より「この機会に皆さんと信濃川と大河津分水の将来を考えたい。」と挨拶がありました。



台風19号の出水では長野の洪水が約半日かけて大河津分水まで流れてきたこと、その時間は備えることができることなどを紹介しました。(講演①丸山課長)



大河津分水との意外な繋がりを紹介されたほか、災害が起きたときに必要な情報や、情報発信の方法について問いかけ、会場の皆さんと一緒に考えました。(講演②山崎氏)



「一人ひとりが日常の中で防災意識を持てるような社会をつくっていくことが必要。」と参加型防災の大切さについてお話し頂きました。(講演③松田氏)



講演終了後の質疑応答では「大河津分水路改修事業が竣工すると、どのくらい安全性が高まるのか？」など、多くの質問が寄せられ、1つ1つ回答しました。